



防災士よこはま

日本防災士会横浜支部通信

第40号 NO. 040

日本防災士会横浜支部
支部長 今井 淳
事務局長 早乙女善彦

発行日 2019年4月14日

隼安全協力会「安全講習会」開催

今回は、東京圏の12社が加入する隼安全協力会が建設現場に於ける安全対策の一環として建設現場での作業者の安全心得と災害が発生した場合にとる応急手当の心肺蘇生・AEDの取り扱い手順、また三角巾を使った包帯法についての講習会を実施致しました。

日時:平成31年4月14日(日曜日) 10:45~11:45

会場:川崎商工会議所 川崎フロンティアビル2階会議室 JR川崎駅・京浜急行川崎駅前

参加者:27名、隼安全協力会関係者、日本防災士会横浜支部4名(今井・乾・小菅・飛田)

主催者:隼安全協力会

安全講習会の概要

1. 建設現場での安全心得

建設現場の安全:現場の安全衛生管理体制の把握と遵守

▲現場のルール

- ① 作業衣は正しい服装で、保護具は正しく着用する
- ② 互いに協力して作業をつすすめる
- ③ 安全指示をしっかりと守る
- ④ 判らない事は指示を受ける、勝手に作業を進めない
- ⑤ 5S(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)に努める
- ⑥ 安全標識の確認

▲現場の安全確保、

- ① 安全施工サイクル(安全朝礼—安全ミーティング—作業開始前点検—作業中の指導・監視(安全パトロール—安全工程打ち合わせ)—持ち場後片付け—終業時の安全確認)
- ② 5S活動(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)特に正しい服装、正しい保護具の着装、正しい器具の点検
- ③ KY活動(危険予知活動) 共有として—危険予知活動表等の活用
災害・事故には原因だけでなく誘因ある、誘因をイメージしてなくす。
- ④ リスクアセスメント 手順、作業に伴う危険性・有害性等を洗い出す、洗い出した危険性・有害性を見積もる。危険性・有害性を安全施工サイクルの朝礼等の時に共有する。
- ⑤ ヒューマンエラー災害
原因別災害発生率については、最も発生率の高いのは危険軽視37.9%、次が不注意21.9%、省略行動本能10.1%、これらが3大ヒューマンエラー災害の実態である。
- ⑥ ヒヤリハット報告
リスクアセスメントで活かせる。(ハインリッヒの法則、300回に1回の割合で事故が発生する。)
- ⑦ クレーン作業の安全
- ⑧ 合図で安全確保 クルーン作業・高所作業・発破作業時等の合図(呼び出し・巻き上げ・停止)
- ⑨ グーパー運動(重機災害防止)
- ⑩ 労働災害発生時の報告 労働基準監督署への報告の義務等につきまして講義を致しました。

2. 建築現場における応急救護について

▲心肺蘇生について

レサシアン・AEDを使用しての心肺蘇生等についての取り扱い・実施方法等の説明後に参加者全員が実際に心臓マッサージ・AEDの操作を行ないました。

▲三角巾を使用しての包帯の仕方を実施

建設現場においては、ちょっとした怪我があるようです。その場で直ぐに役立つ三角巾の使い方では皆さんが熱心に講師の話に聞き入り、実際に三角巾を使つての包帯の仕方ではなかなか思うように行かなかつたようでした。



今回の講習会は、建築現場で働く作業者が取り組む災害防止対策の一環と実施いたしました。

作業現場におきましては、労働基準局等における安全対策マニュアル等により災害防止を図っておりますが建設現場での安全の心得と事故現場における応急手当等に付いての講演と心肺蘇生・AEDの取り扱い・三角巾を使用しての手当の習得訓練でした。

文責: 今井 淳(支部長)